

*「暑さ寒さも彼岸まで」の秋彼岸に咲く彼岸花(別名はまんじゅしゃげ【曼珠沙華】) 毎年不思議に思うのですが、彼岸前には全く姿を認識できないこの花は、お彼岸を迎えて、そういえば彼岸花の季節だと道端を注意すると、あちこちの道端で花火のような深紅(白や黄色もあるのですが、日本は赤が多いです)の花を咲かせているのです。葉もない花が一体いつの間に咲くのかと例によってNetを探りました。彼岸花は、9月中旬に何と花茎だけが地上に現れ、1週間て30センチ以上も伸び開花するそうです。そして開花から約1週間て花が終わると茎の根元に葉が芽生えるのでした。花も葉もお互いを知らぬまま、茂った葉は冬を越し4月には次第に枯れますが、地下では鱗茎に蓄えた養分て花茎を誕生させ9月まで育てます。彼岸花は毒があるのて敬遠する人もいますが、毒は球根を虫や動物から守るためとわいわれています。

☆羅針盤 No.115

発行: 東港金属グループ
 編集: 東港金属株式会社
 東京都大田区京浜島2-20-4
 電話 03-3790-1751
 URL <https://www.tokometal.co.jp/>
 (見学受付)
 電話03-3790-1751 又は 各営業担当

*またやってきた台風(15号)は千葉県全体に大きなダメージを与えて抜けて行きまし。停電断水と追いつちの大雨に瓦が飛んでブルーシートで覆った屋根が並ぶ町並みは痛々しく、行政の手助けが必要です。日本における大雨発生数が長期的に増加傾向にあるのは、地球温暖化の影響もあると言われており、今後も地球温暖化が進行すると、大雨の発生数は増加すると予測されます。-----
 *東港金属グループは非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



☆羅針盤 鉄・非鉄スクラップ・市況からの10月予測

営業部 Y の考察



鉄スクラップ → 考察) 9月は東京製鉄宇都宮工場特級価格は26,000円/トンでスタート。最終的には23,500円/トンとなり、2,500円/トン下がりました。輸出価格も前月比での下落は6ヵ月連続。25,000円/トンを割り込んだのは2017年5月以来。10月に閉じては、米国のスクラップ価格の下落やその他の輸出価格も上げに期待がないためさらに下がると思われます。

銅 → 考察) 9月はLM 5,600ドル/トン、国内銅建値640,000円/トンでスタートし、最終的には5,700ドル/トンまた国内銅建値は660,000円/トンと値上がりしました。10月に関しては円安・米中の貿易問題の早期合意の可能性から上がると思われます。

アルミ → 考察) 9月はLME1,750ドル/トンでスタート。2017年1月以来の安値1,721ドル/トンで終わりました。10月に関しては、原料アルミナの価格下落・需要の伸び悩みから下がると思われます。

プラスチック → 考察) プラスチックに関しては、国境を越えて行きかうプラスチックごみが、先進国を中心に行き場を失っている状況はますます深刻化しております。処理費に関しても焼却場やRPF工場、埋め立場も継続値上げ。先行きの予想がつかない状況は変わらななと思われます。

予測つかず

9月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	○
銅	×	プラスチック	-



東港との出会い

営業部 石川 幸子

営業管理課の石川です。このコーナーの投稿も4回目、今回で最終回となります。不安だらけのスタートでしたが、忘れかけていた入社当時から現在に至るまでの自分自身を振り返る事ができ、また、偶然にも面談にいらした方に「羅針盤を読みました」と仰って頂き、恥ずしくもあり、また嬉しくもありの投稿になりました。

さて、東港金属に入社し、全く未知の世界でしたが本格的に窓口、二次マニフェスト管理業務に入りました。どちらの業務も現在と変わりませんが、一つ大きく変わった事は、管理方法が紙ベースからデータ化へと変更になったことです。現在は更なる業務効率化を目指しております。当時は、教えて頂いた事をメモにとり、挙句の果てに、どこに書いてあるのか分からなくなり、同じ事を何度も繰り返し聞きながら家に持ち帰り、ノートをまとめた事を思い出します。また、繁忙時には、ヘルメットをかぶり現場に走る事もありました。お客様と接する事は、決して得意ではありませんが、会社の顔である受付業務には、とても遣り甲斐を感じております。徐々に業務に慣れて来た頃、業務形態の見直しがあり、事務グループ管理の任務を申し付けられました。管理職と言っても、「何をどのようにすれば」と戸惑いましたが、背伸びせずに自分らしく、正確な業務遂行を目標にと心がけ、現在も同じ気持ちでおります。

本格的に業務に慣れて来たころ、営業管理2課、今の東京事務所へ異動となりました。全体的な業務の流れは把握していたものの、入社当分の気持ちで懸り不安が付きまといました。日々、自分との葛藤があり、加えて1課、2課との兼務が始まり、もちろん、アシスタント業務も担当し、伝票処理、契約作成等をこなし、週には本社工場へ足を運ぶという目まぐるしい日が続きました。

その中で、大切なことは「任せきりにせず自分から行動に移す」事を常に考え、実行して夢中で歩いてきました。振り返れば今年で11年目になっています。業務の指導や部下の育成は、育ってきた環境や価値観から、決まったやり方では上手くいかない事が多く、その人に合わせたやり方を見つけたり、相性の部分であったり、自分自身の成長が必要だったり、やるべき事は尽きません。現在も、いいえ、今後も永遠の課題としてついてくる事でしょう。

どこまで出来るか分かりませんが、体力の続く限り(能力もですが)、今のスタイルで頑張っていこうと思っております。

お付き合いくださいまして、ありがとうございます。 完

☆羅針盤 電池のリサイクル

今回は身近にあり重要な役割を果たしている電池のリサイクルについて、(一社)電池工業会、(一社)JBRC、(一社)鉛蓄電池再資源化協会(略称SBRA)のウェブサイトを紹介いたします。各ウェブサイトでは多種の電池に関して、各々のリサイクル方法やその考え方が紹介されておりますが、ここでは紙面の都合で概略のみを記載いたします。

①乾電池、リチウム一次電池
 電池工業会では、乾電池は、水銀を使用していない場合、現在の技術においては全てを回収・リサイクルすることは適切ではないと考えております。これは、使用済み乾電池の取り扱いに関する日欧米三極電池専門家会議の公式見解と基本的に同じ考え方です。

②ボタン電池
 電池業界では、環境負荷の軽減の取組みとして水銀ゼロ化に努めてきましたが、ボタン電池に関しては性能面・品質面の理由から今なおごく微量の水銀が使用されているものがあり、現時点では完全な無水銀化は実現していません。

電池工業会の「ボタン電池回収推進センター」では、自主取り組みとしてボタン電池の回収とその適正処理を行っております。方法は回収協力店に設置されたボタン電池回収缶に、使用済みボタン電池を入れていただき、最終的には中間処理業者の施設に送ります。ここで、水銀、鉄、亜鉛化合物等として全てリサイクルします。廃棄処分、あるいは埋め立ては発生しません。



③小型充電式電池
 JBRCが、登録された全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者等の回収拠点から、小型充電式電池を回収し、再資源化を推進しています。

充電式電池には、主な材料としてニッケル[Ni]やカドミウム[Cd]、コバルト[Co]、鉛[Pb]など希少な資源が使われています。限りあるこの希少な資源をムダなく使うために、リサイクルによる「資源の再利用」は大きな効果を持っています。再利用の例としては、ニッケルと鉄の合金はステンレスの材料として、また、カドミウムは新しいニカド電池の材料として活用されます。使用済みの充電式電池は、棄てないで希少資源の有効活用のため、ぜひリサイクルにご協力ください。どれもリサイクルマークがついていて他の電池と見分けられます。



④自動車用バッテリー
 自動車用バッテリー(鉛蓄電池)のリサイクルシステムは、SBRAが環境省の広域認定を取得して自主取組みとして行っております。その流れは先ず、排出事業者(販売店等)がSBRAに登録

⑤産業用電池
 電池工業会の会員を含む蓄電池製造者等は、産業用蓄電池処理に対して④と同様に環境省から広域的な処理を行う者として認定されており、地方自治体の廃棄物処理業許可を不要とする特例制度にて適切に処理(引取りから再資源化まで)することが可能です。

東港金属のような産業廃棄物処理業者にとっては、使用済電機製品の中に組み込まれている電池が破碎工程で発火するケースがあります。是非、事前の分離を宜しくお願い致します。